

令和5年度学校経営計画

江田島市立江田島小学校

I ミッション

- ふるさと「江田島」で、学んで良かったと思える教育の実現
- 一人一人が主体的に学び、多様な人々と協働して、新たな価値を創り出そうとする基盤づくり
- 「里海」を教育資源と捉え、自然体験活動や探究活動の充実を図り、自然に対する好奇心や探究心を育む
 - ・資質・能力の育成を意識した学びの連続性
 - ・地域の教育資源の活用と体験学習の充実

II ビジョン

- 地域の願いを受け止め、教職員が協力し、「知・徳・体」をバランスよく育む教育の創造

III 現状分析

「確かな学力」

- ・令和4年度「江田島市学力調査」より、各教科平均正答率（着色のセルの箇所は、目標値を下回ったもの）

	国語			算数			理科		
	知・技	思・判・表	主体的	知・技	思・判・表	主体的	知・技	思・判・表	主体的
1年	74.4	64.3	70.3	86.0	66.7	74.6			
2年	89.9	70.5	59.4	69.1	49.1	49.7			
3年	71.0	73.3	64.7	76.7	52.9	60.3	72.2	59.0	65.3
4年	76.1	60.0	54.5	71.6	53.9	40.0	74.0	61.8	54.5
5年	71.6	67.2	73.5	74.7	54.1	62.2	68.5	65.9	74.1
6年	74.8	69.6	65.3	79.7	63.8	67.6	66.2	71.5	64.0

- ・令和4年度は、県教育委員会より「キャリア教育の充実を中核としたカリキュラム開発事業」の指定を受け、個別最適な学びと協働的な学びの充実に向け、取組を進めてきた。令和4年度の全国学力・学習状況調査においては、国語科の平均正答率は68%（県平均より+1ポイント）、算数科の平均正答率は70%（県平均より+6ポイント）、理科の平均正答率は71%（県平均より+5ポイント）と実施されたすべての教科で県平均を上回ることができた。しかしながら、単元テスト60%未満の児童は全体で15名であり、目標値の10名を達成することはできなかった。
- ・江田島市学力調査においては、特に、第4・5学年の国語科、算数科、理科とともに昨年度の平均正答率を上回り成果が表れている。しかしながら、第3学年においては国語科、算数科で昨年度の平均正答率を下回る結果となった。今後は特に、学校全体で「思考力・判断力・表現力」を高める取組が必要である。

「豊かな心」

- ・全児童アンケートの結果、自己有用感を感じている児童は中間評価で84%、最終評価で82%であった。また、目標に向かって努力する児童についても中間評価で84%、最終評価で82%であり、目標値であった90%以上を達成することはできなかった。
- ・校内の早朝ボランティア活動への参加率は、全児童中54%の児童が、年間1回以上参加することができた。

「健やかな体」

- ・全児童アンケートの結果、進んで運動に親しむ児童は中間評価では78%、最終評価では83%であり、目標値であった85%以上を達成することはできなかった。また、第5学年の体力・運動能力調査結果については、令和2年度全国平均以上の種目数の割合は38.5%であり、今後は特に、「瞬発力」・「持久力」・「跳躍力」を向上させる取り組みが必要である。

「信頼に応える学校」

- ・令和4年12月に実施した保護者アンケートでは、保護者の学校満足度は、89.3%であり、前回の9月調査と比べ、4.3%向上した。しかしながら、目標値であった90%以上を達成することはできなかった。今後も教職員自身が組織で対応することを心がけ、保護者や地域の方々から信頼を得ることが重要である。

「働き方改革」

- ・令和5年2月末現在の超過勤務時間60時間以内の教職員の割合は79%で、目標値であった80%以上を達成することができなかった。今後も日課を工夫するなど、組織・個人の両面からの業務改善が必要である。

IV 学校教育目標

まっすぐ しなやかに ねばり強く ～ 学びをつなぎ、ともに創造しようとする児童の育成 ～

V 目標及び取組

	中期経営目標	短期経営目標	具体的な取組・方策
学び続ける力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 主体的・対話的で深い学びを推進し、基礎的・基本的な知識・技能を定着させ、児童自らが粘り強く学習に取り組もうとする力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に推進し、授業改善を進める。 (「主体的な学び」が定着している児童の割合) 	<ul style="list-style-type: none"> キャリア教育を推進し、資質・能力の育成を目指した授業改善を行い、学びの自立化を進める。 研究授業において、学ぶ意欲や学力向上の視点から授業を検証し、改善点や取組内容を全教職員で共有する。
		<ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本の定着を図る。 (江田島市学力調査の各教科の合計点が、目標値を上回った学年の数) 	<ul style="list-style-type: none"> プリント学習に加え、タブレット端末等も効果的に活用し、つまづきのある児童への具体的な手立てを工夫する。 家庭学習において自主学習の方法を示し、児童自らが、課題と思う単元の学習を選択的に行わせる。
思いやりのある心の育成	<ul style="list-style-type: none"> 互いの個性や多様性を認め合い、安全・安心な学級づくりを実現し、児童自らが主体的に活動しようとする力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自ら進んで行動することを通して、児童の自己肯定感や自己有用感を高める。 (自己実現力・自己有用感がある児童の割合) 自分の夢や目標をもち、実現に向かって努力する児童を育てる。 (目標に向かって努力する児童の割合) 	<ul style="list-style-type: none"> 校内ボランティア活動を継続実施する中で、児童の行動を適切に評価し、価値付けをしていく。 道徳教育や人権教育の充実を図り、思いやりの心を育む。 体験活動を計画的に仕組み、キャリアノート等も効果的に活用しながら、自己の目標や課題を視覚的に確認できるようにする。
健やかな心身の育成	<ul style="list-style-type: none"> 運動の楽しさを味わえる取組を推進し、体を動かす機会を習慣化させ、児童自らが体力向上を図ろうとする力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> 運動習慣の確立に向け、粘り強く取り組む児童を育てる。 (「運動やスポーツが好き」と答える児童の割合) 自ら進んで、運動に親しむ児童を育てる。 (進んで運動に親しむ児童の割合) 	<ul style="list-style-type: none"> 外遊びを奨励し、友達と関わりながら体を動かすことの楽しさを味わうことができるように、各学級での遊び等を工夫する。 気軽に運動に親しむことができるよう、『チャレンジ10』に取り組みませ、柔軟性を高める。 体育の授業で、サーキットトレーニングを取り入れ、「瞬発力」「持久力」「跳躍力」に焦点化した種目に取り組みさせる。
		<ul style="list-style-type: none"> 食と健康の大切さに気付き、より良い生活習慣の定着に向け自己管理できる児童を育てる。 (朝食を毎日食べた児童の割合) (起床・就寝時刻の固定ができた児童の割合) 	<ul style="list-style-type: none"> 生活アンケート等を活用し、保健指導を行い、メディアに関する指導の充実を図る。 食育通信に加え、タブレット端末や掲示物を活用し、朝食の大切さや朝食レシピの紹介を行う。 生活リズム週間の個人カードを活用し、睡眠と朝食の採り方を改善できるよう、学校と家庭が連携した取り組みを行う。
信頼に応える学校	<ul style="list-style-type: none"> 保護者や地域住民等の協力を得ながら学校運営を行い、家庭やPTAと連携・協働した取組を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童、教職員の姿を通して、地域・保護者から信頼される教育活動を推進する。 (保護者の肯定的評価の割合) 	<ul style="list-style-type: none"> 学校評価アンケートやいじめアンケート等を計画的に実施し、児童や保護者の思いを受け止めながら、教育活動を推進する。 保護者との連携を密にし、信頼関係を深めるとともに、「報告・連絡・相談・確認」を確実にし、組織的な対応を行う。
働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革を推進し、教職員が健康でやりがいを持って働くことができる環境を整備する。 	<ul style="list-style-type: none"> 超過勤務時間を削減し、教職員がやりがいをもって働ける組織づくりを進める。 (超過勤務時間の割合) (教職員の肯定的評価の割合) 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員アンケート等を実施し、業務改善に向けた取組を組織的に行う。 日課等を工夫し、業務に向き合う時間を確保する。

